



# 西麗会会報



埼玉県立浦和西高等学校同窓会

西麗会ホームページ <http://www.seireikai.org/index.html>

## 5月27日(日)母校で会いましょう



「フー!!」

総会は5月になりました。

「イケイケ!!」



2011年6月 西高祭体育祭にて  
(撮影 斉藤俊一)

今年は5月の日曜日開催です。  
おまがえのないよう声をかけ  
合ってお出かけください。

\*

「薬物乱用防止の原点は人  
とのきずな」

講師 片山 昇先生

②記念授業

内容 ①総会

会場 西高50周年記念館

12時40分 懇親パーティー

11時30分 記念授業

10時30分 開会

日時 5月27日(日)

14時30分 閉会予定

西麗会総会のご案内

# 2012





## 会長あいさつ

# 「再び歩み出そう」

西麗会会長 高橋 幸雄

触れたくない、思い返したくもない、しかし決して忘れることのできない、あの三月十一日から、はや一年が経過しました。復興は遅々として進まず、本会会員様も含む被災地の皆様のご苦労いかばかりかとご拝察申し上げます。

あの日、不安に満ちた不確かな未来を垣間見てしまった私たちですが、それでも再び歩み出さないうわけには参りません。

あの一番輝いていた西高時代の思い出を語り継ぎ、西麗会のバトンを次代にリレーしていかねばなりません。

昨年赴任された菅野吉雄校長先生は、赴任後一年を経験された今「浦和西高における在校生、卒業生、保護者の母校愛は日本一レベルだ」と驚嘆されておられます。因みに、菅野先生は福島県田村市のご出身であり、ご実家が被災されております。奥様、娘さんが西高卒業生でもあり、本校に対する思いも格別であるご様子です。まことに心強い限りで、母校の一段の飛躍が期待されます。

なお本年は七年ぶりの西麗会名簿発行(平成二十四年六月予定)もあります。会員皆様のご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

## 記念授業講師は

片山 昇先生(保健体育)

## 「薬物乱用防止の原点は

## 人とのきずな」



片山先生には平成六年から五年間、授業に部活動に生徒指導に精力的なご指導をいただきました。

体育の授業では、徹底したグループ学習を取り入れ、生徒自らに活動計画を立案させるなどの自主自立の道を貫かれました。

保健の授業では、薬物乱用防止教育に力を注がれ、生徒と大がかりなフィールドワークを展開し、テレビ埼玉にも出演されています。文部科学省や教育委員会の仕事にも従事され、「ストップ・スピード」「これならできる覚醒剤・薬物乱用防止教育入門」「薬物乱用防止教育指導事例集」などを執筆されています。

部活動では、器械体操部の顧問として猛練習に明け暮れ、県大会で入賞を果たされました。

西高で印象に残っていることとして「玄関前の桜の美しさ。通称遅刻

坂が大学のキャンパスのようだったこと。万葉の庭のスケッチを西高祭に出展したこと。西高生が何事にも頑張りすぎるのでそれをセーブさせることが大変だったこと」等々を挙げられ、「西高には他校にない良さ」と伝統がある。その良き伝統を継承しつつ、新しい伝統づくりに励んでほしい」と西高生にエールをいただきました。

片山先生は現在、県立朝霞西高校で再任用教頭をお務めの傍ら、日本体育大学の非常勤として教職教養の「生徒指導要論」を担当されています。「今後は大学で徹底的に研究活動に勤しみたい」と抱負を語られています。

今回の記念授業は「薬物乱用防止の原点は人とのきずな」というテーマです。多くの皆様の受講をお待ちしています。

私と西高

## 個性的校風と

## グローバル時代



橋 優 (昭和四十一年卒)

西高では転校生でした。二学年からの編入です。四国・高松で中高一貫の私学に通っていたのですが、受験一辺倒の校風に嫌気がさして担任の先生に相談したところ「君には向いてないな。公立でのんびりやった方がいいぞ」とアドバイスされたのがきっかけです。

今から振り返るとずいぶんと思いついた決断でしたが、いざ転校しようとする、当時は県内転校が認められず、けっきょく母親の実家があった埼玉に一人で来たわけです。

西高に通いはじめて、まず明るくのびのびとした雰囲気はほととしいのを覚えていきます。制服がなく、埼

玉ではめずらしい共学だったこともあって「県南のユートピア」と呼ばれているとクラスメートから誇らしげに教えられ、それほど大げさな表現ではないなあと思つたものです。自由で個性的で、それでいながら秩序はほどよく保たれているといった具合。

西高祭では、著作を読んだばかりの八杉竜一東工大教授を講師に招き、講演会をやりました。実行委員会に申し込むとすぐにOKが出て、わら半紙にマジックインクでポスター作りと一人で勝手にやれた充足感はいまも鮮明です。

よき友も忘れられません。村木孝次郎君のお宅には毎週末のようにレコード持参で泊まり込み、翌朝まで語り明かしたものです。同君は念願

どおり医師になったのですが、若くして他界したのが悔やまれます。また化学部の仲間とはいまに至るまでお付き合いが続いています。

あの時代、日本全体が上向きで明るい未来が待っていることをだれも疑っていなかった。なにか沈潜して暗いまと明らかに違います。私が社会人として大半を過ごした新聞社も入社した70年代と近年では様変わりです。西高もそれなりの変化はさげられないでしょう。でも、個人人がくつきりと粒立っていたあの校風はいつまでも続いてほしいと祈らずにはいられません。

趣味のクラシック音楽でいつも感じるのが、日本と欧米のオーケストラの違いです。昔と違って日本のオケもツボを外すことは少なくなりましたが、音全体の厚み、深みはまだまだ見劣りします。個々のメンバーが「おれが一番うまいよ」「私の音の美しさはだれにも負けない」と言わんばかりの欧米オケ。お互いに競り合い、しのぎ合うなかから生まれるハーモニーの力強さに比べて、日本の場合、自分を全体に合わせることにまず神経がいつている感じで

す。まとまりはいいが主張が弱い。やや図式的に過ぎるかもしれないが、いつでもソロで聞かせるよ、という欧米に対し、グループに埋没して一人だと自信なさげな日本という対照でしょうか。

私の数少ない海外での生活や仕事でも、これに通底する現象を散見しました。ますますグローバル化する世界で日本もその流れから逃れることはできません。まず個人が自分の足腰をしっかりさせないと、グループとしても社会としても、また国家の将来においても展望は開けないのではないのでしょうか。

私の記憶にある西高は、そんな時代にこそびつたりの校風がごく自然なかたちで満ちていたように思えるのです。

## (略歴)

1947年生まれ。朝日新聞で政治記者、政治部長、事業本部長。92年、ハーヴァード大学国際問題センター客員研究員、ニューヨークタイムズで短期インターンシップ。現在は勸資本市場研究会研究主幹。

# あの先生は今



平成二十三年四月二十四日に開催の西麗会総会の案内状にご回答いただいた先生方の返信の一部を掲載いたします。紙面の都合ですべての先生がたのご紹介ができないことをお詫びいたします。

また、一部抜粋しておりますのでご了承ください。(敬称略)

## ～ 出欠はがきから ～

●東松山市 荒井 桂 (社会)

拝復ご案内有難うございました。ご盛会を祈ります。

○雪降れば佳き事有りしわが一生西高奉職春雪の中○春の雪別れの季節告ぐるとふ雪の西高去りし日

杏し○西高に恩顧を受けし師も友も多くは逝きてわれ七十五阿々

●世田谷区 荒井淳雄 (数学)

私は昭和二十八年四月に大学を卒業してすぐ浦和西高に奉職いたしました。その頃の学校は別所沼の上の方に木造の校舎があり、今でも懐しく思い出されます。

●さいたま市 荒井英明 (英語)

平成十八年六月五日より、さいたま市防犯ボランティア、午前と午後それぞれ三十分、徒歩で巡回。

旧陸軍東部第十七部隊第二十七師団極兵団所属のときからの習慣。

●さいたま市 伊藤美和子 (事務)

会報何時も有り難うございます。御盛会祈念申し上げます。

●さいたま市 白木恵二 (音楽)

西高の卒業生が結成した合唱団コタライは今年で三十七年になり、

去年暮メサイアを演奏しました。五十代のメンバーが多くなりまして、皆元気で歌っています。

●さいたま市 生方美代 (理科)

西高には平成十二年から十年間お世話になりました。平成二十二年に春日部高校に転勤し、心機一転

がんばっておりますが、まったく異なる環境の中で戸惑い「西高シック」になることもあります。

●川口市 岡沢静子 (国語)

それなりに元気でです。

●さいたま市 奥野和子 (体育)

会報ありがとうございます。



▲記念授業の本橋恒雄先生

掲載の写真の方々、西高在職時の素晴らしい思い出をたぐり寄せることができます。元気で居ります。八十歳になりました。

●さいたま市 悴田てる (家庭)

いつも会報ありがとうございます。元気の元の字も小さく小さくなりました。

程ほどに食欲ありて楽しめり 峠の釜めし二回となりぬ。

●川越市 久津間文隆 (理科)

現在、所沢中央高校で地学を担当しています。地学の授業で、見沼たんぼを自転車で行った頃、関東ロー

ム層を見に行った頃が懐かしいです。

●さいたま市 小幡洋子 (国語)

西高に着任した時、「先生として来る前に、生徒として来たかった。」と思い、退職後は、「西高のよさは、教師が教えないことが出

来る生徒が集まることだ。」と思いました。一番は、チームで仕事が出来ることです。最近はなかなか顕彰されませんが、世の指標になる学校でありたいですね。

●熊谷市 佐藤嘉信 (数学)

言葉を失う大惨事を目の当りにし、平穏な日常の掛替なさと、人々の生業に、あらためて、いとおしさと切なさを、ひしひしと感じています。被災者と連帯し今を生る。

●さいたま市 柴崎武宏 (理科)

大震災にあわれた方々の生活の中に、ピア・サポートの原点を見ました。自分ができること、信じ認め合う心がお互いを助けあうのですね。学生にも伝えていきます。

●さいたま市 澤田由紀男 (数学)

西高に昭和四十六年からお世話になりました。今は過ぎた日々がなつかしくよみ返って来ます。当時、校舎の間に「万葉の庭」がありました。

●さいたま市 菅原鉄也 (国語)

定年退職となりました。四月から非常勤講師として、三郷高校でお世話になります。これからは登山、ジョギング、家庭菜園、囲碁を楽しみたいと思っています。

●銚田市 斎藤 恂 (国語)

大震災にて沢山の卒業生から安否の問合せをいただき有難うござい

ました。海岸から2km離れている上鹿島灘はリアス式ではないので、大津波の心配はありません。

●上尾市 楚山大和(英語)

定年退職して六年目を迎えました。が、教職を続けています。傍ら趣味の盆栽に囲まれ、芳しい花の香りに包まれながら手入れに余念の無い日々を送っています。数々の貴重な体験をすることができた西高時代に感謝しています。

●静岡県磐田市 都築 渉(教頭)

東大立籠もり等の大学紛争の余波をうけて高校紛争が始まりました。その当時の浦和西高の教頭が私でした。

●さいたま市 高田美保子(事務)

いつも西麗会の会報をいただきありがとうございます。懐かしく拝見しています。これからも益々浦和西高校のご発展を心からお祈りいたします。

●宇都宮市 寺内房江(事務)

会報有難うございました。大地震で日本中がパニックですが、皆様がどうか安全であります様にと祈っています。

「おびえつつ ショックに耐ゆる大地震 よみがえるかな 敗戦の日々」

●さいたま市 中村 清(国語)

無為徒食の生活に慣れそうなの

で、運動不足の解消と気分転換を兼ねて、トラスト地の保全作業に加わり仲間と交流したり、趣味の野鳥観察を続けております。

●さいたま市 仲西駿策(体育)

巨大地震の被災者を勇気づけるチャリティサッカーが開かれ、西野朗監督(本校四十八年卒)率いるガンバ大阪遠藤選手が素晴らしいFKを決め、力強いエールとした。

●さいたま市 永瀬正臣(校長)

総会のご盛会をお祈り申し上げます。狭山事件の石川一雄さんの雪冤運動をライフ・ワークとして老病軀に鞭打ち、今も頑張っています。今年中の解決を信じて。

●川越市 中村正美(英語)

その大学は桜の美しい名所として地元で有名で私の好きな大学でした。縁あって今年の四月よりその大学で教鞭を執ることになりました。人生とは思議なものです。

●川越市 長谷川肇志(数学)

西麗会の会報有り難うございました。ソメイヨシノ・大ケヤキの記事に、十二年間の西高生活を感慨深く思い出しました。西麗会の益々の発展を祈念いたします。

●相模原市 平山良吉(英語)

小生満八十七、浦和西高の二年間は懐しい。別所沼はどうなっている

のでしようか。西高は個性的な先生が多く、自由な雰囲気でした。隆盛を祈つてます。

●八王子市 藤井くに子(養護)

会報をいつもありがとうございます。私満八十三歳になりました。私なりに元気に過しております。

●江戸川区 村田秀子(体育)

春の訪れと共に家の白い木蓮の花が六十位見事に咲き、その隣の赤い椿は二十咲いて紅白の素晴らしいコントラストは私の心を充分元気づけてくれます。

●蓮田市 本橋恒雄(書道)

春日部高校長を最後に定年退職をして、早五年、現在、某私立高校の顧問役、書道の世界で楽しみ、家庭では、愚妻に叱られながら、草花、野菜をつくっています。

●さいたま市 八重島昭子(国語)

西麗会会報ありがとうございます。懐かしく拝見いたしました。ご盛会をお祈りいたします。

●さいたま市 山口畑一(社会)

東日本大震災 悼  
阿鼻叫喚人家諸共津波呑む  
千載一遇天変地異来  
父母を津波に亡くす孤児(みなしご)の卒業証書泥に塗れる

●川越市 吉沢義和(書道)

会報をありがとうございます。毎年楽しみにしております。本橋恒

雄先生のご講義を拝聴したいところですが、のつびきならぬ先約がありますので失礼します。

●鴻巣市 吉住登喜江(事務)

会報を有難うございます。卒業生の皆様方が在校生の方々の想いが伝わり、私は素晴らしい学校に勤務させていただいたことに深く感謝の気持ちで一杯です。西麗会の発展を祈念いたします。

●鳩山町 和田幸男(社会)

昨年度の総会の日に久し振りに与野駅から西高まであるきました。景色は変わりませんが、後に西高通の大ケヤキと遅刻坂のソメイヨシノの話題がマスコミに取りあげられました。最後の面会をしたことになりました。加えて、中野喜美先生の御冥福をお祈り致します。



▲2011年西麗会総会にて

## 西高生が被災者を支援

### 東日本大震災を忘れない

春まだ浅い2011年3月11日、その日は週末の金曜日でした。午後2時46分、あなたはどこで、何をしていたのでしょうか。そのとき、この地震がこれほどまでに大きな被害をもたらすことを、予測できた人がいたでしょうか。

#### そのとき、西高では

この日、西高は第63回卒業式を祝つており、卒業生とその保護者、それに在校生、教職員、来賓など約1,300人が体育館で「そのとき」を迎えました。

地震の瞬間はちょうど卒業式第2部も佳境に入ったころでした。

これまでに感じたことのない強い、そして長い揺れに、第2部の実行委員の生徒(卒業生)がマイクを握り、「落ち着いてください」と呼びかけました。そのおかげで会場内は混乱することなく、揺れが収まるまで冷静に待つことができました。

JRと野駅からの京浜東北線もその日はすべて連休となり、晴れ着姿の卒業生や保護者なども帰宅の足を奪われました。タクシーに乗り合わせた、家の人の迎えを待たたりして帰宅

が遅くなった人も多くありました。どうしても帰宅できなくなった卒業生、保護者、在校生などが本校合宿所に宿泊しました。

#### 西麗会のごき

西麗会では3月下旬の理事会にて緊急対応を協議しました。会員から西麗会あての寄付の中にはいち早く「震災の被災者のために役立ててください」と書かれたものもあり、西麗会として震災義援金を朝日新聞社に寄託することを理事会で決議しました。

また、3月25日付で発送した「西麗会報第35号」のうち、宮城、岩手、福島県を中心に被害の大きかった地域にお住まいの会員に宛てた会報約200通が「配達不能」のために返送されてきました。

この分については高橋会長が書かれたお見舞いのあいさつ状を添えて、再発送しました。

#### 頼もしい西高生

西高生たちも生徒会が中心となつて被災者支援を呼びかけ、あつという間に義援金を集めて寄付をしました。このような西高生の実行力には敬

服します。

当時、生徒会長だった牧裕真さんは「義援金を募ろうという声は多くの西高生から上がった。当時は速やかに下校するよう指示が出ていたので生徒会の活動にも時間的な制約があったが、みんなが協力してくれて思った以上の義援金を被災地に送ることができた。募金のほか、西高生は自発的にストローや照明の使用を控えて節電にも協力した。」と語ってくれました。

その後も西高祭の売上金を寄付するなどいろいろな形で協力しました。

また、交換留学などで西高と交流のあるオーストラリアのタンボリン・マウンテン・ステート高校の皆さんからも心のこもった義援金が送られてきました。

#### ボランティアとして活躍

それだけではありません。福島の原因事故のために多くの住民が役場機能ごと移転してきた「さいたまスーパリアーナ」には運動部の生徒を中心に、多くの西高生がボランティアとして避難されてきた方々の支援をしました。

ボランティアをした一人、当時野球部マネージャー榎田美咲さんは「野球部の1,2年生28人の部員がボランティアに行きました。支援物資の仕分

け、食事の配膳の準備、ごみの回収などを行いました。初めはボランティアといつてもピンときませんでしたが、実際にアリーナに行ってみて、これはいへんなことだと実感しました。たくさんボランティアが助け合つて活動する様子を目の当たりにしてとてもよい経験になりました。」と語ってくれました。

また、当時サッカー部長だった鈴木雄大君は「サッカー部は主に被災者の要望を聞いて必要な支援物資を届けたり、食料を配布するお手伝いをしました。被災者の皆さんは思ったよりも元気そうでしたが、心境を思うと複雑な気持ちだった。同じ高校生も避難していて、普段当たり前に学校に来て勉強し、部活動ができることに改めて感謝した。」と語ってくれました。

#### 大切なのは継続

ここにすべてを紹介することはできませんでしたが、ほかに西高生、現職の教職員、西麗会員には何らかの形で被災者の支援にかかわった人は多かつたことと思います。

被災された方が日常の暮らしを完全に取り戻すまでにはまだ、時間がかかるようです。一時的な支援ではなく、継続的な支援が求められます。

私たちはこのことを忘れず、息の長い支援を続けていきたいと思います。

# あの友 この友



題字・カット  
山本鐘互  
(昭和40年卒)

## 大府市 海野和子(昭和15年卒)

昨年四月から二女の家に、十月からグループホーム「いこいの家」に居ます。(二女)服部葉子記

## さいたま市 高橋美智子(昭和16年卒)

また一年がんばりました。東北地方の人々のことを考えると胸が痛みます。戦争のころが思い出されてきますが、みなさん元気ががんばってほしいと願っています。

## 渋谷区 宮田(田辺)仁子(昭和25年卒)

卒業以来六十年以上、来年は傘寿の会を開こうと話していた友が急逝。にわかにならなくなった。彼女の分まで生きて、この国の未来を見届け、再会したいと願っています。

## さいたま市 江原(大迫)妙子(昭和26年卒)

元気ですごしております。

## 東京都北区 小林念正(昭和29年卒)

西高時代、蹴球が世界的スポーツになるのは夢想だにできなかった。現在、年令壁を越えた蹴球談義の楽しい仲間入りが出来るのは当時の部員のルールと足技のご教授の賜と感謝の一念である。

## 上尾市 加藤正納(昭和30年卒)

日本郵便新東京支店勤務。私15才若

いと医学診断、友達、課長代理様と担当課長様。提案書いい文章かくんですよね・・・といろいろ提案書出してます。営業獲得(収入増益)、交通事故防止の施策及び撲滅する為のアイデア発明。郵便事業(株)1,050億円、赤字損益改善提案書、その他、人権標語募集20件提出等頑張ってます。

## さいたま市

### 沢村(前川)栄子(昭和34年卒)

古稀を過ぎ、何をするのも段々億劫になり時間の使い方が下手になっていふことを感じます。時は金なりをもう一度考え直したいと思っております。

## 練馬区 高村(保谷)和子(昭和34年卒)

昨年古稀を迎えヘルパー二級の資格を取り介護の仕事をしています。様々な環境の中で年を重ねてゆく事への淋しさ悲しみ、それを乗り越えようと笑顔を絶やさない方々。その健気さに感動しています。

## 川越市 横田光子(昭和35年卒)

今年古稀を迎えます。働き続け絵を描き続けた忙しく失敗の多い51年でした。いつも西高の卒業生であること、当時の先生方に、友を誇りに思い続けた51年でした。

## 千葉市花見川区

### 佐藤(河合)喜和子(昭和35年卒)

巨大地震(3月11日金)御見舞い申し上げます。薬局は幕張にあり35階

## 千葉市若葉区 北内利子(昭和31年卒)

高令になった為、千葉の孫の隣へ引越しました。昭和三十一卒組は別所沼校舎の最後の卒業生なので思い出は沼近辺の事ばかりです。型破りの学校で本当に楽しかったです。

## 北佐久郡軽井沢町

### 難波竹一郎(昭和31年卒)

寒波襲来、また左足に痛みが走ります。泣き言は仕方なし、相撲の躊躇の姿勢、膝を開いて上体を正し、沈みこむと楽になります。犬の散歩で実践しております。

## さいたま市 林津雄厚(昭和35年卒)

元気で古稀を迎えた三日後に東日本大震災が発生、幸い被害なしでした。非常勤で原子力防災の仕事をしており、微力ながら福島原発事故対応に従事しました。

## 新座市 松村昭子(昭和35年卒)

私は、遅くなりましたが去年の八月に主人を病気で亡くしました。今は元気をとりもどして毎日を過ごしております。西高に通っていた頃がなつかしく思っています。

## 品川区 岸 信介(昭和35年卒)

西高の音楽部以来、今日までずっと合唱三昧です。先日西高の二年D組の同窓会に半数以上の仲間が集まり想い出話に楽しいひと時を過ごしました。

## 大町市 八木 正(昭和35年卒)

田舎住いをしておりますが、会報で懐かしい恩師、仲間の近況に接し、五十年前の記憶にあてはめて懐かしんでおります。会長、幹事の皆様方に感謝です。

東京都葛飾区 中野寿雄(昭和36年卒)

一人きりの3年生、受験におびえながらも練習が楽しく、やめられなかった排球部。今も夢に出てきます。七十路近くながらも青春の一ページ。忘れられません。

さいたま市 本間一郎(昭和36年卒)

西麗会のご清栄心よりお祈り致します。

文京区 林野 宏(昭和36年卒)

この度、報致出版社より「運とツキの法則」という著作を発刊いたしました。西高時代の経験を土台にビジネススマン人生の在り方を綴ったものです。読んで下さい!!

日向市 藤倉 博(昭和36年卒)

引越しました。転居先は宮崎県日向市です。西高卒業して50年、あつという間に過ぎた楽しい時、遠い所ですがお近くに来られたらご連絡ください。

松戸市 富田鎮雄(昭和37年卒)

11年1月28日に、S.37年卒の越田、千葉、松本諸氏と四名が、実に46年振りに再会し、西高の想い出話の花を咲かせました。次は、西麗会総会に出席してみようかな。

奈良市 小堀孝之(昭和38年卒)

15年振りで、又奈良に戻りました。毎日散策を楽しんでいます。母校の益々の御発展と皆様の御健勝を祈っております。出来ることなら一度、浦和の街を歩きたい!

蓮田市 後藤鎮四郎(昭和39年卒)

会の運営・会報の発行御苦労様です。会報は西高時代を想いながら読んでいます。現在西に東にとか出かけ、現役を続けております。なかなか暇が

取れません。

水戸市 根本明德(昭和39年卒)

屋根崩落により車二台大破、プロック塀倒壊等地震による被害は数あれど、何とか普通の生活を維持しております。浦和の友人よりお見舞いの電話あり、感謝のみ

さいたま市 片山瑛一(昭和39年卒)

今は、前期高齢者の仲間入り!! デイサービスの送迎をしています。時折、送迎で西高のそばを通りますが、とてもなつかしく、昔を、思い出します。皆様お元気で!!

さいたま市 佐野和義(昭和39年卒)

一昨年は西高野球部が、なんと三回戦まで勝ち進みました。いよいよ甲子園が近づいてきました。皆んな球場へ行こう! 夢が実現するかも。

新発田市 島田 均(昭和40年卒)

仕事で新潟に移り住んで38年。現在は、日本海を臨む森林保護の傍ら自然に同化しています。毎年の三・四組のクラス会が都会との接点、仲間よ!! ありがとう。

さいたま市 和田隆雄(昭和40年卒)

昭和四十年卒の皆様お元気ですか? 第一線を退き、社団法人埼玉県物産観光協会の相談役をしております。又、さいたま市ソフトボール協会会長を仰せつかっています。

杉並区 島野博司(昭和40年卒)

会社生活が終わわり、二年近くなりですが、それなりに慣れてきました。最近は徘徊?とBSで邦画の名作を楽しみ、時折、各時代の友人達と旧交を温めております。

川口市 本橋道夫(昭和40年卒)

加藤順子(元年卒で著名なカン

ツオーネ歌手)さんのコンサートが与野駅西口徒歩一分のシャイン(〇四八―八三三―一〇四五)では毎月開催されます。ご参集下さい。

練馬区 宇根 等(昭和41年卒)

9年前にリタイヤしてオーストラリアのプリズベンとの行き来の生活をしていましたが、最近はほぼ東京での生活になってきました。

調布市 中島(長島)裕子(昭和41年卒)

役員の皆様、ご苦労様です。卒業してから約40年経つのに毎年会報を送ってくださり恐縮しています。下記に住所変更いたしました。ほんの少々通信費用を払込みいたします。

仙台市若林区 奥村まさ子(昭和42年卒)

震災から一ヶ月経ち、ライフラインがそろい落ち着いた所ですが、度重なる余震に落ち着かぬ毎日です。築23年のマイホームはリフォーム必要ですが、皆元気で。

さいたま市 安東英治(昭和42年卒)

昨年卒業時のクラス会が、稲垣先生もお元気に出席してくれました。私は昨年、今年2月と脊髄の手術を、未だ完治せず又手術かな? 他は元気なのですが・・・

久喜市 吉沢一男(昭和42年卒)

転居しました。利根川の風も気持ちいいですよ!!

さいたま市 永田喜雄(昭和43年卒)

何だ、お前西高卒業か。お前こそ昭和二十四年生まれの同級生とは驚いたよ。これ何何かの縁だ・・・意気投合! 仲間といつしよに東北石巻市へボランティア!

さいたま市 本橋敏雄(昭和43年卒)

毎年会報有難うございます。昨年退

職し、今は野菜作りや散歩会などスポーツも通じて、地元の方々とコミュニケーション作りを始めています。

横浜市磯子区 野田 徑(昭和44年卒)

藤沢市で私立高校の教諭をしていましたが、西高を卒業して四十年が過ぎました。以前より44年卒の同窓会をしたいと思っています。協力できる人を探しています。

さいたま市 中山敏則(昭和44年卒)

今年貝沼区に引越しました。緑区に住んでいた時は通勤で与野駅迄歩く途中で西高をつきつて行きました。体育館、西高坂ありがとう。又歩きたいな!

さいたま市 島 茂美(昭和45年卒)

平成二十二年六月に主人が亡くなりました。「アイル」は主人の味を守りつつ営業しております。西高の卒業生の方々が多数来店しておりますので宜しく願います。

さいたま市 和田和子(昭和45年卒)

私の夫は和田淳一です。西高卒業以後ずっと女子バスケット部のコーチをしています。西高傍を通られましたら体育館をのぞいてみて下さい。バスケットの人生です。

市川市 陳野敏弘(昭和45年卒)

来年一月に会社定年。これからは好きなことをのんびりと。今までに趣味をたくさん作ってきたので全国を走り回り、詩吟を歌って人にも教えようかと思っております。

江東区 石松千春(昭和46年卒)

昨年、同級生の五十嵐君と清水君(旧姓伊藤君)と出会って一杯やりました。清水君とは卒業以来でしたがす

ぐに昔に戻りました。皆さんはいかがでしょうか!  
主人の定年を機に、娘家族の住む北海道へ移りました。

**札幌市 佐藤さつき(昭和46年卒)**

**小金井市 渡部貞一(昭和47年卒)**

いつも会報ありがとうございます。選暦まで2年のこの頃、輝かしかった高校時代を懐かしく思い出します。皆さん、色々な職場で活躍してらっしゃるね。きつと。

**さいたま市 松澤静男(昭和47年卒)**

西高との縁もなくなっていました。が、何年か前からサッカーをしにグラウンドに行くようになりました。シニアサッカークラブに参加し、またつながりました。

**川口市 高橋律子(昭和48年卒)**

西高の卒業生を中心にして、年数回ゴルフコンペを開催しています。体育の仲西先生も参加しています。「西打会」の新しい仲間、歓迎です。

**北本市 高橋 正(昭和49年卒)**

今年(二〇一一年)三月、姪が浦和西高を卒業しました。

**岡崎市 布施達彦(昭和49年卒)**

2008年4月から中国天津市赴任を終え6月から岡崎市へ戻りました。3年間の激変の中での生活から、復興へ向けた日本の生活開始から、**上越市 加藤哲文(昭和49年卒)**

毎年会報をありがとうございます。私は三年時の担任が故上松健先生でした。現在は新潟県に在住していますが実家は旧与野市です。西高の校舎を時々眺めて懐かしんでいます。

**板橋区 石川理恵(昭和51年卒)**

東日本大震災で被災された同窓生の

方もいらつしやることでしよう。心よりお見舞い申し上げます。この会報が届く頃には、少しでも復興が進んでいますように・・・。

**江東区 野崎美夫(昭和52年卒)**

「Jカーブの法則」(フォレスト出版)、「励ま詩」(マガジンハウス)の二冊の本を出版させていただきました。西高での記憶が薄れることは決してありません!

**小樽市 杉山(石原)早苗(昭和53年卒)**

齢を感じながらも二年に一度のダンス舞台創っています。昨年、心から尊敬できる男性と再婚しました。東北関東大震災に心痛めつつ笑顔でがんばっていきます。

**さいたま市 西山幸代(昭和53年卒)**

四月十日の統一地方選挙でさいたま市議選に初当選させていただきました。ご自分が、お子さんが西高生の皆様に大きな大きな支援をいただき、西高生の絆の深さを再確認致しました。

**三郷市 松尾(川岸)雅子(昭和53年卒)**

東日本大震災が起きた3月11日は未婚の西高卒業式当日。体育館も怖いほど大きく揺れ、私達は帰宅困難者になりました。今なお続く悲しみと混乱が、一日も早く収束に向かいますように。

**桶川市 森田欣充(昭和53年卒)**

甥が今年西高を卒業し大学生となります。今年亡くなった母親と共に入学式の桜門をくぐってからもう三十六年、ソメイヨシノの寿命はとでも残念です。

**さいたま市 鳥羽 恵(昭和53年卒)**

未曾有の大災害。復旧と再建は現行

制度では限界有。被災者の生活再建には国民的エネルギーが必要。新しい日本に変わる時です。一緒に頑張りますよ!!

**さいたま市 関谷恵子(昭和53年卒)**

香港、そして二度目はシンガポールに赴任中です。彼の地で「おお振り」をテレビで見ても西高を懐かしんでいます。地震、津波、原発事故の報に心痛めています。

**練馬区 新藤(小磯)葉子(昭和53年卒)**

50才を機に昨年からフルマラソンに挑戦。今年は東京マラソンにも参加でき完走しました。いつまでも挑戦する気持ちを持ち続けたいと思います。

**朝霞市 岩崎泰之(昭和58年卒)**

会報有難うございます。正門の桜が切り倒されたのですね。二度目の海外赴任地メキシコで6年目を迎えています。西高卒業後早くも28年近くが経つたとは。

**さいたま市 小田 聖**

**小田(佐藤)裕子(昭和58年卒)**

西高の同級生結婚で二十年になりました。市立浦和高サッカー部の長男を応援しつつも、いまだに西高のプライドか勝利の「校歌」を歌わずにいる私たち夫婦です。

**川口市 藤巻 巖(昭和59年卒)**

二人の子宝に恵まれ、上の子は新高2、下の子は新高1に。二人共西高には行ってくれず、私立校へ。子供を通わせ西高に顔を出したかったです。残念。

**板橋区 杉山美樹(昭和59年卒)**

子育て、仕事に加え、コーチングのコーチとして活動の範囲を広げまし

く過ぎております。西高時代の友人と会う機会も時折、思い出も更新しています。

**さいたま市 小野塚(山崎)薫(昭和59年卒)**

西麗会会報をいつも送っていただきありがとうございます。私の西高時代は学食がなく、購買部のパンもすぐ売り切れ、日幸堂さんへ何度走ったことか。お世話になりました。ありがとうございました。

**鳩ヶ谷市 中條 寛(昭和60年卒)**

病気のため入院して居ります。ありがとうございます。関西への単身赴任を終えて、数年ぶりに埼玉県に帰任しました。今年、是非、西麗会総会に出席したいと思っております。

**さいたま市 YOKO CONNOLLY 新垣羊子(昭和60年卒)**

西高卒業後、アメリカの高校に編入、オリベット大学卒業、以来25年アメリカ生活、現在ノースカロライナ州シャーロットで不動産業を営んでいます。同窓会時には帰国して出席したいと思えます。(姉代筆)

**文京区 田辺正樹(昭和61年卒)**

人生初めての転職を経験するともに、今さらながら父親になりました。今まで以上に頑張らねば。

**さいたま市 石川幸、民見子(昭和61年卒)**

二〇一〇年十月より、家族一同ベトナム・ホーチミンシティに住んでおります。何かと勝手が違う海外生活ですが、それなりに楽しんで暮らしています。

宮城県黒川郡

辨野(金子)恵美子(昭和61年卒)

3・11大震災。おかげさまで家族も家も無事でした。不自由な生活の中、西高時代の友人からのメールに励まされました。思いやり、繋がりを大切に過ごしていきます。

さいたま市 馬場則雄(昭和63年卒)

元気にしています。西麗会会報は楽しく読ませてもらっています。西高卒業生のご活躍に感心させられます。私はいいいのですが、健康でいられるだけでよしと思っています。

さいたま市 紅谷弘二(昭和63年卒)

行政書士として法務のバリアフリー化と予防法務を推進しています。多方面の人脈作りの中で多くの西高卒業生と出逢い、世代を超えて意気投合しています。

富士見市 木村知子(平成4年卒)

持病とうまくつきあっています。ダイエットも少しずつ始めています。健康を目指し実践中です。また、みんなに会えることを、楽しみにしています。

朝霞市 伊藤真由美(平成4年卒)

昨年久々に一年生の時の同級生二人と飲んだので、西高時代がとても懐かしくなりました。担任だった大木澄太郎先生、同級生の皆様、お元気ですか？私は元気です。

北本市 本間幸信(平成4年卒)

元気で北海道で中学三年生を教えています。子供も一人増えました。女の子です。(上の子は男の子です)

さいたま市 佐藤大輔(平成4年卒)

都内から大宮区に引越しました。西高時代の友人も県内在住が多く、よ

く家族ぐるみで会えるので、住み心地のよさを実感しています。娘に夢中で帰宅が早くなりました。

浦安市 櫻庭(彩崎)真弓(平成4年卒)

三年間のアメリカ生活を終え、日本に戻ってきました。船便がおちついたところで大地震が起きました。ライフラインが止まり、しばらく不慣れた生活をしていました。一日も早い復旧を願っています。

東京都中央区

福浦(一場)真由子(平成5年卒)

元気にしております。卒業生のそれぞれの道でのご活躍をお祈りしています。

台東区 大河原(平野)恭子(平成5年卒)

いつも会報をありがたうございませす。御徒町に引越す、夫と息子と3人で暮らしています。

さいたま市 常葉(石毛)奈緒(平成6年卒)

西高に入学してから20年後の今年、私達は結婚しました。式には多くの同級生にお集まりいただき賑やかに新たな人生のスタートを切る事ができました。雪の中来てくれたみんなに感謝しています。

さいたま市 大谷(義武)武(平成6年卒)

大宮にて不動産に特化した資産運用会社を経営して六年目になります。少しでも地域・社会に貢献出来ればと思います。

東京都北区 福島智也(平成6年卒)

遅ればせながら私も生涯の伴侶を得て、新しい生活をスタートさせました。最近ゴルフを通じて西高時代の友人と会う機会が増えています。

八千代市

吉田(宮本)明枝(平成8年卒)

遅刻坂の桜が寿命を全うされたとのこと。知った時はとてもショックでしたが、永い間お疲れ様、見守っていてくれてありがとうございましたと伝えたいです。

福島市 植田(高史)平(平成10年卒)

弁護士になり、福島県福島市に赴任しています。東日本大震災では、西高時代の友人の皆様から励ましや物資の支援を頂き、本当にありがたうございました。

東京都板橋区

大塚(庸平)平(平成11年卒)

卒業後12年を経て、西高の卒業生と遭遇する機会が増えました。不思議な縁に温かい気持ちになります。

さいたま市

久良木(基広)平(平成11年卒)

入学される方は後ろを見ずに突き進んで欲しい。卒業される方は流されずについて欲しい。自由とは自らの由、色々な先輩がいる。でも、学べる時は考えず学べ。

さいたま市 柳澤(知里)平(平成23年卒)

震災の日が卒業式でした。西高での経験を生かし大学でも頑張っています。今、女子サッカーが最強!!注目ですよ。西高女子サッカー部を応援よろしくお祈りします。

「同窓会だより 今日だけ高校生」

卒業してはや60年

去る平成23年11月10日、浦和ロイヤルパインズホテルの一室に賑やかな声がみなぎりました。

それは、浦和西高第3回生なでしこ会(昭和26年3月卒)のクラス会。私達は昭和20年4月に浦和第二高等女学校に入学、戦後の学制改革により6年間在学、何度も校名が変わり、卒業の年が浦和西高等学校となったのです。

2009年の西麗会総会記念授業で講演された、今は亡き中野喜美先生のクラスメイト達です。従って高校時代の絆は強く、この日も傘寿を目前にした年令をもとめせず28名の方々が、県内外から出席されました。

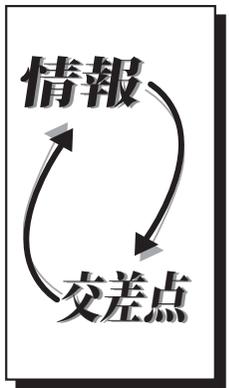
浪江町で被災された級友の体験談をはじめ、それぞれの人生の節目を越えてきた皆さんのお話には高校生当時の面影に、越し方の重みがかさなって、生き生きとしたパワーが感じられました。このパワーの源が、西高時代に培われたくましく息づいていることを感じたひとときでした。

この日を記念し、気持ばかりを西麗会にご寄付させていただきました。皆様方の益々のご発展をお祈り致します。

(宮山初枝)



昭和26年3月卒 第3回卒業生のクラス会(なでしこ会) 平成23年11月10日 撮影



- 地学部は「鬼怒川に河畔砂丘の存在を新発見」により第63回県科学教育振興展覧会中央展において埼玉県議会議長賞を受賞しました。
- サッカー部は新人大会において25年ぶりに決勝に進出し、準優勝を果たしました。
- 女子サッカー部は学校総体、関東大会、女子サッカー選手権大会に出場しました。
- 水泳部青木香寿子さんは県スプリント選手権大会において50M背泳で第8位に入賞し、関東大会に出場しました。
- 女子バスケットボール部は関東大会県予選でベスト4、夏季南部支部選手権大会で第2位、ウインタークップ埼玉県2次予選で第3位に入賞しました。
- 硬式テニス部は関東大会県予選、新人大会県大会に出場しました。
- バドミントン部は新人大会県大会に出場しました。
- 空手愛好会は新人大会に出場し、女子団体組手で県ベスト8に入賞

- 弓道部は関東大会県予選において男子団体が決勝進出、加藤真洋さんが男子個人の部で準優勝をしました。
- 2年生(当時)溝口由希さんは英語スピーチコンテスト県大会においてブロンズ賞を収めました。
- 2011年5月18日、松岡修造さんが浦和西高校を訪れ、テニス部を「熱血指導」しました。その模様はCステレビにて放映されました。
- 浦和西高校2年生は2011年10月25日から28日まで、3泊4日で台湾修学旅行を実施しました。故宮博物館の見学や国立三重高級中学校での交流会など盛り多い修学旅行となりました。
- SNS(ソーシャル・ネットワークキング・サービス)に対する西高生の意識についてNHKの取材があり、その結果が2011年11月にニュース番組「おはよう日本」で紹介されました。
- 本会員で絵本作家の筒井頼子さん(昭和38年卒、仙台市在住)は2011年9月、浦和西高校PTA主催「文化講演会」において「心のメッセージ」と題して講演されました。
- 本会員で弁護士植田高史さん

- (平成10年卒、福島県在住)は、2011年10月、浦和西高校とPTAが共催する進路講演会「未来の種」において「学ぶことの意味」と題して講演されました。
- 埼玉県高体連サッカー専門部女子委員長を25年の永きにわたって務められた本校旧職員、島田俊一先生(昭和39、平成2年在職、数学科)は女子サッカーの普及、発展に尽力されたことにより慰労を受けられました。その模様は2011年8月21日付け毎日新聞埼玉版において「なでしこジャパンの基礎を築いた」と報道されました。
- 本会員で声優・女優の清水マリさん(昭和30年卒)は2011年10月9日付け読売新聞「わたしの先生」に登場されました。
- 本会員で作家の井上こみちさん(昭和33年卒)は著書『往診は馬にのって 淡路島を駆けめぐる獣医師・山崎博道』(佼成出版社)により第6回福田清人賞を受賞されました。
- 本会会員の赤澤(旧姓橋本)洋子さん(昭和42年卒)は鶴岡タイムス社より『絵本の風 子どもとおとなの絵本100冊の魅力』を出版されました。
- 西麗会報第35号で「日幸堂さん42

年間ありがどう」の記事を掲載したところ、「日幸堂さん」こと滝口様より西麗会に過分のご芳志をいただきました。「長年お世話になった西高生の皆さんに、くれぐれもよろしく」とのことでした。

**お世話になった先生方**  
平成23年度人事異動  
(敬称略)

校長	田部 功	戸田翔陽高校へ
教頭	長谷川文敏	浦和東高校へ
国語	小幡 洋子	退職
理科	林 明	退職
音楽	阿部 恭三	退職
国語	岩崎 広巳	新座柳瀬高校へ
国語	青柳ルリ子	新座高校へ
数学	長野 文昭	川口東高校へ
数学	芝原 琢郎	朝霞西高校へ
理科	藤森建太郎	岩槻高校へ
保健体育	森田 一成	川口工業高校へ
英語	小林 文子	桶川西高校へ
英語	富沢 章	蕨高校へ
養護教諭	菅谷 弥生	越谷南高校へ
事務室	阿部 和恵	南稜高校へ
事務室	野本 美咲	桶川高校へ
情報(非常勤)	福井 絢子	任期満了
理科(非常勤)	泉田 悠人	任期満了





# 浦和西高校歌の歌詞オリジナル原稿

赤井 励(昭和45年卒)

西高に入学して最初に校歌を聴いた時、ちょっと難しい歌だなあと思った記憶があります。しかし今は音楽の世界も非常に広がり、旋律などはEXILEの歌をほとんど覚えてしまおう若い諸君には難しくもないでしょう。で、校歌の歌詞のほうは、明治時代の唱歌歌詞のような文語調なので、今の生徒にはいま一つ親しみにくいというのが正直なところではないかと思えます。この歌詞についてご報告があります。

私は音楽史をやっているので、関係する古書カタログが届くと詳細に目を通すことしております。ある書店のカatalogに清水重道の自筆原稿というものが複数出品されていることに気づき、「浦和西高等学校歌詞原稿」という部分に釘付けになりました。清水家(ご遺族)より出たもので、欲しければ個人でも購入できるからです。これまで音楽関係者のご遺族が資料を手放す際は、日本

近代音楽館に寄贈というのが一般的なルートだったのですが、この時期、日本近代音楽館ではオーナーの遠山一行氏が運営から完全に手を引かれる、今後の運営を明治学院に移管するため、施設全体の引っ越し期間にあたっておりました。また日本近代音楽館でどの資料を引き受けるかの判断は館側で決めるため、資料の価値観については遺族の意向に沿えないこともあると館理事である友人から聞いておりました。そんな経緯があつて、貴重な自筆原稿資料が古書店に流れたものと推測されます。

国文学者であつた清水重道の代表作は、信時潔作曲の歌曲集「沙羅」ですが、下総皖一との共同作業も多く、その詩才が音楽家に評価されていたことがうかがわれます。清水重道が昭和前期に東京音楽学校(現東京芸術大学)で教えたのは短期間でしたが、当時の東京音楽学校では、明治時代以来の「唱歌編纂掛」の伝

統が保持されており、文部省管轄下の公立学校校歌の多くは同校の先生方が担当されました。この唱歌編纂委員たちの実態については非常に複雑な問題があり、この紙面では紹介しきれないので、興味のある方は、私が書いたビクターの「原典による近代唱歌集成」やキングの「尋常小学唱歌」足踏みオルガンの思ひ出し」CD解説をご覧ください。

古書として出たものは、自筆歌詞原稿と譜面つきのガリ版(孔版)印刷資料の2点です。諸先生や同窓にご心配をかけた者として、母校に何らかの貢献をしたいと前から思っておりました。今回、ささやかですがこの資料を購入して母校に寄贈させていただきます。今は皆さんが見学できるように展示しているのと、嬉しい限りです。清水重道は昭和33年に48歳の若さで亡くなつており、残念ながら詳しい伝記もないようです。

最後に自分の近況ですが、還暦を迎え、10年続けた日本リードオルガン協会会長を退きました。幸い健康なので今も献血を続けさせて頂いたり、地元自治会で防犯パトロール

参加中。ジョギングには飽きてしまいい山歩きに変更。昨年は暑寒別岳、早池峰、焼岳、両神山などに登りました。今年の元旦は、同学年の生徒会長だった上野邦雄君と共に三峰神社に表参道から初詣、さらに妙法ヶ岳(三峰神社奥宮、標高1,329m)まで回ってきました。



# 「同窓会だより 今日だけ高校生」

## 昭和39年卒 少年に戻った150分

昭和39年3月卒業の浦和西高同窓会は11月12日(土) 13時30分より大宮東天紅で開催された。前日の悪天候が嘘のように晴れ渡った秋日和だった。参加者は105名。予想以上の盛況だった。

会は斉藤定吉先生、中村清先生のお二人の恩師をお招きして、賑やかに始まった。開会宣言、乾杯で始まり、各クラスのクラス幹事がそれぞれの名前を呼んで壇上上がり、まず記念撮影。イヤ、それにしても皆さん貫禄が付き、20歳以上年長の先生が混じっても見分けがつかないほど。いちばん受けた企画は当時と現在の西高の写真比較だ。当時の写真をみんなから集めて映像化し、体育祭、フアアイーストーム、修学旅行などの懐かしい映像満載のスライドショーを行った。未舗装だった西高通りを通学した当時の懐かしい写真と、商店やビルが建ち並ぶロマンス通り(今は西高通りをこう呼ぶらしい)との比較。第二グラウンドがあることさえ知らない仲間もあるし、美しく整備された学校にも驚かされる。隔世の感ありだ。

お酒が入って、席の移動が始まり、思い出話に花が咲く。よく飲み、よく食べ、よくしゃべり、楽しくも懐かしい150分だった。



(殿岡 紀)

## 昭和45年卒 「還」激 同窓会が開催

平成23年11月19日に第22回卒業生の還激同窓会が恩師山口畑一先生をお迎えして浦和ロイヤルパインズホテルにて開催されました。一次会116名、二次会84名の出席で在学当時の話や現在の話など話題は尽きず、三次会は近くにある同級生のレストラン「アイル」にて60名が参加してお開きは夜の10時過ぎでした。

男子は貫禄が付き、女子は益々美しく、会社では呼ばれない君、ちゃんと呼び合い、お互い薄れつつある記憶の糸を手繰りあいました。時が経っても西高生らしさは不変で、時空の壁を越えて高校生にタイムスリップしたような錯覚にさえ陥りました。それぞれが自分の人生を一生懸命生きてきて、元気に再会できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。話

足りなかつたというお言葉も寄せられておりますのでまた近いうちに来ましたら幸せと思っております。

尚、ご欠席だった保莉先生に写真をお送りしましたところ昨年7月10日にご逝去されたとのことお知らせがありました。ここでご報告させていただきます。ご冥福をお祈りしたいと思います。



(綿貫保子)

## サッカー部創部 60周年有志記念式典

昭和37年卒 武田量三郎

平成23年4月23日(土) 浦和ロイヤルパインズホテル5階四季彩において、12時から有志による浦和西高サッカー部創部60周年記念式典が催され、昭和28年卒から41年卒に渡る

37名が集まりました。

37年卒の大木葉俊泰様の開式のごとびで始まり、藤浪武三先生、三浦敏昭先生を始めとする物故者及び東日本震災の犠牲者に対して献花、黙祷が捧げられました。次に、初代OB会長武井林寿様から、創部にまつわる苦労話の披露があり、一期生の神藤徳郎様の乾杯があり歓談となりました。

29年卒の大川周行様より創部時に御指導頂いた菅野一郎様、小川時雄様、岡野成美様、仲西駿策二代目監督に記念品として金色のサッカーボールが感謝を込め贈呈されました。西野朗ガンバ大阪監督からの祝電、星野隆之元コーチ(元西高教員)からのメッセージの披露、各学年代表による当時の楽しい思い出話が続きましたが、あつというまに3時間が過ぎて、40年卒の遠山茂現OB会長の閉会の言葉でお開きになりました。西



平成23年4月23日 浦和西高サッカー部創部60周年有志記念式典

### 与野駅前の大ケヤキが モニユメントに

埼玉県の「県の木」はケヤキですが、与野駅東口、旧中山道との交差点には、高さ13メートル、樹齢300年とも推定される「大原の大ケヤキ」があり、地域住民や西高生にとって、長い間シンボリックな存在でした。

しかし、年々、幹の腐食が進み、倒れて交通事故の原因にもなりかねないことから、2011年5月に伐採されました。

これを惜しんで、各方面でモニユメントにして残す動きがあり、与野駅構内にも展示されています。

浦和西高でも、田部井功前校長が、卒業生である彫刻家 原田史子さんにモニユメントの制作を依頼し、展示することとなりました。

その後、この展示計画が頓挫し、一時は実現が危ぶまれましたが、



「雲」(UN)  
より、現在、校舎内  
エントランスの脇

2012年4月に赴任した菅野吉雄校長の意向により、現在、校舎内エントランスの脇「雲」(UN)が展示されています。

来校の際には、是非、御鑑賞ください。なお、西麗会では、菅野校長の要請に応じ、設置費用を負担しました。

(大熊幸雄)

### 追悼

本会前監事 伊藤淑子さん



本会前監事として本会の運営に大きく貢献された伊藤淑子さんが

2011年7月27日に逝去されました。心より哀悼の意を表します。

伊藤さんは浦和西高校の前身である浦和第二高等女学校を昭和17年に卒業されました。

西麗会との関わりは長く、30年以上の間監事として、会計監査や会運営への助言をしてくださいました。

母校と西高生を愛し、西麗会理事会にはだれよりも早く来て万葉の庭の草取りやごみ集めをしている姿をお見かけしたものでした。

春先の理事会ではカタクリの花の咲くのを心待ちにし、残暑のころの炎天下でも帽子とサングラスで紫外線除けをしながら草取りをされました。

中庭にジュースなどのパックが散乱していたり、学校の印刷物が紙飛行機になって捨てられているのを見ると「西高生は近ごろ荒れているのかしら」とひそかに心を痛め、スポーツや学業で西高生が活躍しているのを知ると我がことのように喜んでおられました。

### ご注意ください!!

西麗会は名簿会社「サラト」に委託して、名簿の発行を準備しています。住所調査や名簿の購入にご協力ください。

なお、時を同じくして「埼玉県立浦和西高等学校職業別名簿」の調査や勧誘が行われていますが、当会とは全く関係がありませんのでご注意ください。

私事にわたり恐縮ですが、私が浦和市立仲本小学校(当時)に在籍しているころ、伊藤さんは教諭として同校に在職されていたので、以来「恩師」のように思っていました。2011年春、どうしても監事を辞したい旨お申し出があり、理事会一同慰留に努めましたがご決心が固く、お申し出を受け入れざるを得ませんでした。後任が決まるとほっとされたご様子でした。4月の総会で退任のご挨拶をされたのが最後となりました。引き際まで見事だった伊藤先生は最後の最後まで私の「恩師」でした。今後とも西高生と西麗会を見守ってくださいと思います。伊藤先生、ありがとうございました。

西麗会会長 高橋 幸雄

### 後記

東日本震災の被災者の皆さんに重ねてお見舞い申し上げます。年に数回開かれる編集会議は、世代を越える広報部員が集い、良い勉強の機会になります。広報紙から元気な西高の姿を感じてください。

### 広報部会

村上明夫・大熊幸雄・本間葉子  
齊藤俊一・小林 功・岩本和久  
片岡浩一

(村)

### 同窓会の予告

一九八七年三月卒(39回生)同窓会の準備を進めています。二〇一二年八月二日(日)くわしくは西麗会ホームページ <http://www.seireikai.org/index.html> 同窓会の情報をご覧ください。

### 西麗会

発行・編集 高橋幸雄  
発行人 村上明夫  
編集人

〒330-0042  
埼玉県さいたま市浦和区木崎3-1-1  
FAX 048 (830) 1117  
西麗会メールアドレス  
seireikai@urawanishi-h.spec.ed.jp  
西麗会ホームページ  
<http://www.seireikai.org/index.html>